

第一問

問一

文章の導入にあたる部分で、前提となる説明を理解できているかを問う問題。「定型性」について具体的に説明する。

問二

「あの感覚」と抽象的に述べられている内容を、前後の文脈をふまえて具体的に説明できるかを問う。ただし、傍線部の前後だけではなく、文章全体の主旨にかかわり、最後の問五につながってゆく問題。

問三

一見難解な言葉で説明されている部分であるが、それを解きほぐしわかりやすく説明することが求められる問題。「西洋近代的なそれ」については、前の段落に「近代合理的な観点」とあることを参考にする。次の問四は、この問題で問われていることを理解できていることが前提となる。

問四

前問をふまえて、存在についての二つの観点を比較しながら説明する問題。傍線部後半はやや詩的で難解な表現であるが、傍線部を直接解釈する問題ではないので、難解な部分にとらわれすぎず、問題文で問われていることをわかりやすく、対比的に説明することが求められる。

問五

問二とかかわり、文章全体の主旨をふまえたまとめの問題。「さよなら」と「ありがとう」の共通性を指摘するだけではなく、「さよなら」という言葉にどのような要素があるから「ありがとう」と共通するのか、についてわかりやすく説明する。対比的な視点を加えてもよい。

第二問

問一 (解答例)

- Ⓐ 乏 Ⓑ 著 Ⓒ 陥

問二 (解答例)

逆説

問三 (解答例)

政府に統治権限を委託すること。

※問二・問三の解答例は一例であり、これ以外にも正解にすることがある。

問四

本文全体の読解の鍵となる「国家」という概念、すなわち、人々が実際に生活する社会としての国家と約束事としての国家という二つの意味の区別を問う。

問五

戦争で敵国を攻撃して物理的に破壊することの目的は何かということを問う。「戦争を通じて」「実は」という表現に着目する必要がある。

問六

問四の「国家」の概念を問う問題に連動して、真に守るべきものは何かということを問う。

問七

政府が人民の権利や自由を抑圧しているか否かを把握することが、当事者(自国)の場合に比べて第三者(外国)の場合には難しく、その証明が高度に求められるという事情を問う。

第三問 (A)

問一

基本的な語彙の知識を問う設問。「めでたし」「心憎し」など、古文に頻出する語句が理解できているかを確認している。

問二

傍線部を現代語訳させることによって、文脈を正しく読み取って、言葉の意味を正確に把握できているかを問う。

問三 (ア) (イ)

傍線部にいわれる『晋書』「車胤伝」の故事から、帝が螢の光を使って暗闇の中で物を見るという発想を得たことを把握しているかどうかを試す問題。(ア)は設問に示された『晋書』の故事、(イ)は螢を集めた後の帝の行動に着目して、それぞれを正しく読み取って解答する必要がある。

問四

「しほたる」という掛詞のもう一方の意味から、帝や尚侍がどのような気持ちで和歌に詠んでいるかを捉えさせようとする問い。

問五 (ア) (イ) (ウ)

傍線部に引かれる『後撰和歌集』の和歌を正しく読み取り、その和歌を引いた帝の心情を本文全体から考えさせようとする設問である。(ア)は和歌の上の句、(イ)は和歌の第三・四・五句の意味を、それぞれ正しく理解しているかを試している。(ウ)は、ここまでの本文の内容、その内容と和歌とに共通する点を把握して、帝の心情を説明することが求められる。

問六

帝がどのような理由を付けて尚侍を引き留めているかを説明させ、傍線部を正しく読み取ることができているかを問う設問。

第三問 (B)

問一

傍線部の内容を説明させることによって、この文章の前半部分が正しく理解できているかを試す設問。「筆」「墨」「硯」の「寿」について対比的に書かれた部分なので、その違いを補って説明することを求めている。

問二

傍線部の現代語訳。「豈非……乎」の基本句法の知識を問うている。

問三 (解答例)

(ア) むしろこれをなすともかれをなすことなかれ

(イ) I © II Ⓓ

※ (ア) は、部分的に異なるところがある解答も正解とする場合がある。

問四

傍線部の意味を、本文全体の趣旨を踏まえて説明させることによって、この文章全体の内容が正しく理解できているかどうかを試す設問。